

## 平和主義危機 — 政権の手で

福祉施設職員

(鳥取県 68)

「戦後70年間、自衛隊は1人の他国人をも殺さず、また殺されなかった。この日本国民の誇りを、一つの政権の判断で踏みじられてたまるか!」。これが日本と日本国憲法を愛する私の率直な実感である。

安倍政権は安全保障法制成立で、南スーダンの国連平和維持活動(PKO)の自衛隊の任務に「駆けつけ警護」を加える算段だ。武器を持って他国軍の救援に赴く任務で、状況次第では現場の指揮官が武器使用の可否を判断することになるだろう。政府は武器使用の判断基準となる「部隊行動基準」を見直して

いる。だが、結局は現場の指揮官1人が判断の重責を負わされることに変わりはないだろう。自衛隊員が戦後初めて殺し殺される場面になることも十分想定される。70年間積み上げてきた日本の平和主義が破壊されかねない。武力によらず、平和的手段で世界に貢献することこそ、憲法が要請している日本の国の自衛方法のほうである。

私は安倍政権と違憲の安保法制を絶対に許さない。抗議行動として昨年6月から毎週土曜、JR倉吉駅前を歩いてきた。当初は10人ほどだったが、多い日は約120人が集まり、成立が迫った9月中旬には連日開催した。今後も土曜に続けていく。